

JILPT 資料シリーズ

No. 88 2011年3月

仕事能力把握に向けた新たなアプローチ

— 研究開発の動向、評価の現状、職務の共通性からの検討 —



独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

仕事能力把握に向けた新たなアプローチ

— 研究開発の動向、評価の現状、職務の共通性からの検討 —

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

まえがき

個人がその意欲と能力を発揮して充実したキャリアを送ることは、活力ある社会実現の基盤である。キャリアガイダンスは、このような充実したキャリアの形成を支援するために一層機能していく必要がある。

キャリアガイダンスの基礎要素として、個人の特性と職業の適合性の把握があげられる。当機構は、その前身の職業研究所以来、個人の特性と職業の適合性を測定・評価するために各種の職業適性検査を研究開発し提供してきたが、検査開発者としては、これらの検査が公共職業安定所をはじめとするキャリア支援現場においてどのような人にどのように活用されているのかを常に検証する必要がある。

さらに、当機構に蓄積された職業情報やノウハウを基に、キャリア支援に活用できる個人の特性と職業の適合性の把握に資する研究を進めていくことは、当機構の重要な役割の1つと認識している。

このため本資料シリーズでは、個人の特性と職業の適合性の把握に関して、各種職業適性検査からのアプローチについてその実態を検討するとともに、「職業で実行すべき課業とその集まりである職務」の実行可能性という側面から「仕事能力」をとらえ、これまでの当機構の職業研究で収集・整理された課業情報を用いて、職務の共通性から「仕事能力」を把握するための分析を試みた。特に後者については、現段階で完成されたものではなく、むしろ出発点の段階にあるものであるが、長期化するキャリアにおいて、経験により蓄積され、向上するという「仕事能力」の動的な側面に注目し、キャリアを未来へとつなげていくことを支援しようとする、本研究ならではのアプローチとなっている。

このように、本資料シリーズにおける研究は、個人の特性と職業との適合と調和の観点からキャリア形成の支援に貢献しようとするものである。

本資料シリーズが、キャリアガイダンス研究者及びキャリア形成支援者に対して有効な資料を提供するものとなることができれば、幸いである。

2011年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 山口 浩一郎

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆（編集）担当章
西村 公子	労働政策研究・研修機構 統括研究員	第1章、第5章
長縄 久生	労働政策研究・研修機構 主任研究員	第2章1
松本 純平	労働政策研究・研修機構 特任研究員	第2章2
佐藤 舞	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	第2章2
室山 晴美	労働政策研究・研修機構 主任研究員	第3章
松本 真作	労働政策研究・研修機構 副統括研究員	第4章
深町 珠由	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第4章
村田 維沙	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	第4章、第4章付録

目 次

第1章 本資料シリーズの目的	1
1. 本資料シリーズの背景と目的	1
2. 方法.....	2
3. 本資料シリーズの構成と各章の概要	4
第2章 職業適性のとらえ方と研究開発の動向	8
1. 職業適性のとらえ方	8
2. 職業適性検査の開発等の動向	18
第3章 職業適性検査活用の実際	32
1. はじめに.....	32
2. 公共職業安定所職員を対象としたアンケート調査.....	34
3. 能力評価の方法等に関する公共職業安定所へのヒアリング調査.....	45
4. 公共職業安定所における能力評価のあり方をめぐって.....	54
第4章 課業のテキストマイニングからの検討	65
1. 課業データと検討の目的	65
2. テキストマイニングとは	66
3. 解析の手続き.....	69
4. 結果.....	76
5. 考察.....	85
6. 小括.....	89
付録1：潜在意味解析の概要	90
付録2：クラスター分析（K-means 法）を用いた分析.....	91
第5章 個人の特性と職業の調和に向けて	102
1. 本資料シリーズにおけるファインディングス	102
2. 個人の特性と職業の調和に向けて	103